

授業実践研究  
図画工作科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫  
～「つくる喜び」「広がる想い」「豊かな表現」～

安松小学校	岩渕みずき (リーダー)
清進小学校	濱田 朝美
牛沼小学校	江原 彩瑛
三ヶ島小学校	小林 優真

担当指導主事  
刈谷 和哉



## I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫  
 ～ 「つくる喜び」「広がる想い」「豊かな表現」 ～

## II 研究主題について

小学校の図画工作科において、自分の想いを素直に表現したり、表現することを楽しさを感じたりすることができない児童が、学年が上がるにつれ増えるように感じる。その理由として「自分の思うように表現できないと、製作途中で失敗したと判断しあきらめてしまう。」ことなどが考えられる。そのため、製作活動に苦手意識をもつ児童も少なくない。また、「自分の想いを表現する」ことよりも、教師や友達など他者からの評価を気にするあまり、「正しく描こう」とする様子も見られる。

これらの児童の実態を踏まえ、本研究部では、次の3つの資質・能力育成のためにどのような学習方法や学習形態が適切かを研究した。

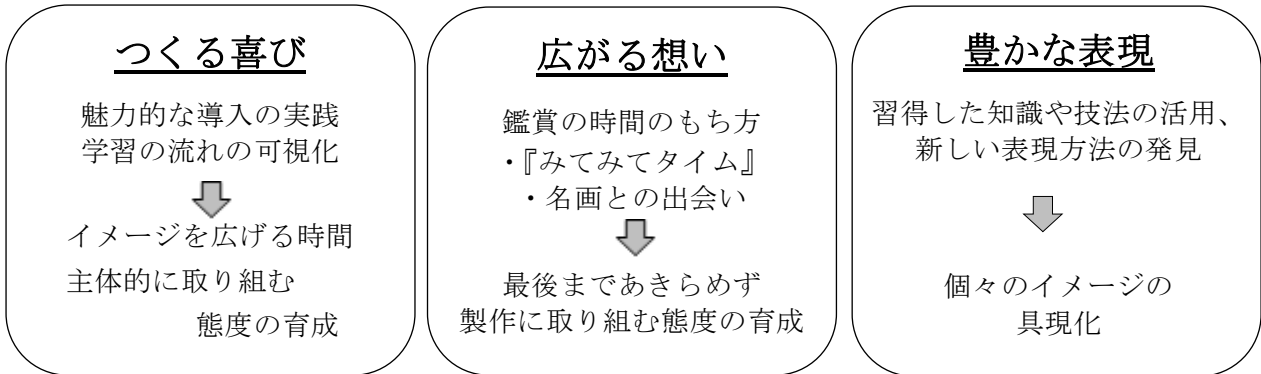
**つくる喜び** 表現することの楽しさを感じ、導入の工夫によって教材に興味を持って主体的に製作に取り組む。

**広がる想い** 製作途中の鑑賞の時間『みてみてタイム』を設けて友達や教師と対話することで想像力を膨らませ、自分のイメージを更に広げていく。

**豊かな表現** これまでの経験から学んだ技法や表現方法を用いて自分らしく想いを表す。

## III 研究の内容

【研究の方向性】



・児童の実態を把握するために、以下のアンケートを行った。

①	図工の時間は好きですか。	好き	どちらかという 好き	どちらかという きらい	きらい
②	図工の勉強は得意ですか。	得意	どちらかという 得意	どちらかという 苦手	苦手
	得意と答えた人に聞きます。 どんなことが得意ですか。また、その理由はな んですか。	自由記述			
③	苦手と答えた人に聞きます。 どんなことが苦手ですか。また、その理由はな んですか。	自由記述			
	友だちの作品（の良いところ）を見ることは好 きですか。	好き	どちらかという 好き	どちらかという きらい	きらい
④	どんな作品にするか考えることは好きです か。	好き	どちらかという 好き	どちらかという きらい	きらい
⑤	何を描いたらいいか、作ったらいいか困った ことはありますか。	ある		ない	
	それは、どんな時ですか？	自由記述			

## IV 実践例

題材名【 さわって、はって、たしかめて 】清進小学校第1学年 授業時数4時間

題材の目標 「お花紙の貼り方を試したり、見つけたりする」ことを通して、試したり、見つけたり、考えたりして思いつく力を培う。

授業の流れ

学習活動① 30分 お花紙の触り心地を楽しむ。

学習活動② 120分 いろいろな貼り方を試す。

学習活動③ 30分 作品を見合う。

用具・材料 ○教師：画用紙、お花紙（各色）、洗濯のり、皿、水を入れたペットボトル  
○児童：タオル

### つくる喜び

～導入の工夫～

- ・好きな色のお花紙を選び、お花紙で遊びながら材料に触れる時間を十分にとり製作につなげた。さらに、のりにつけると触った感じが違ってくることに気付かせた。
- ・「魔法をかけたお花紙」を合言葉に、子供たちが画用紙に好きな感じに貼れるように、様々な貼り方を紹介した。  
貼り方の例として、くしゃくしゃの術、まるめるの術、かためるの術、かさねるの術、ねじるの術、むすぶの術などのように〇〇の術を示しておくことで、後の「みてみてタイム」でも同じ言葉を使って活動することができた。
- ・洗濯のり＝魔法ののり、水＝魔法の水とし、特別な名前を使い、興味をもって活動することができた。



自分で好きな色を選ぶことで興味を持って楽しむ姿があった。



## 広がる想い

～みてみてタイム～

- タイミング・方法・時間…班ごとに、友達作品を見てまわる。1分間。
- 視点…「まねしてみたい魔法を見つけよう。」
- 児童の様子…友達作品を見て回りながら、質問をしている児童もいた。友だちの作品の良いところを自分の作品に取り入れている児童がいた。



みんなの作品をみるのが、わくわくするね。

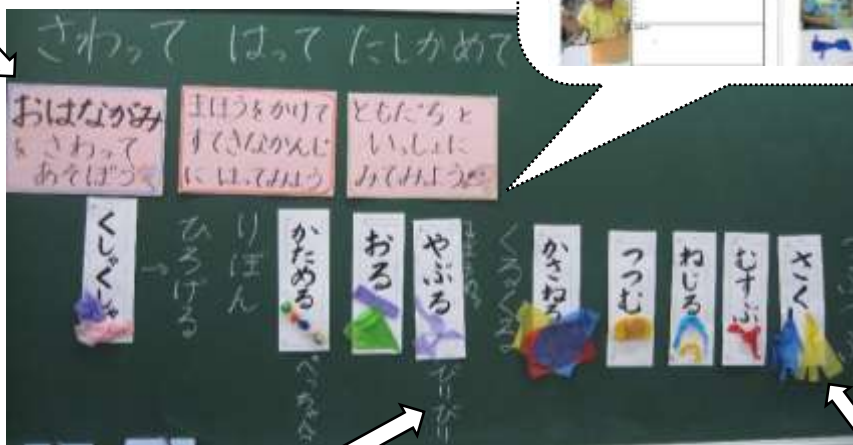
友だちの作品をみて「あー、こうやるんだ」と分かったよ。

いろいろな作品があってアイデアがうかんだよ。

## 豊かな表現

～学習の流れの可視化～

本時の学習の流れを示し、全体を見通して学習活動に取り組めるようにした。



教師が用意した、魔法の術だけでなく、子供からでた術も取り入れた。

教師が事前に貼ってみる体験をしておくことで、子供にとって難しいところ、配慮が必要な部分分かる。

製作途中の写真を添えて作品票をかいた。



題材名【 だんボールで、試して、つくって 】安松小学校第5学年 授業時数8時間

題材の目標 「段ボールの折り曲げ方や組み合わせ方を試したり、見つけたりして、表したいものを見つけ」ことを通して、試したり、見つけたり、考えたりして、思いつく力を培う。

授業の流れ

学習活動① 45分 段ボールをいろいろな方法で加工し、材料の可能性を楽しむ。

学習活動② 90分 いろいろと試しながら、表したいことを探る。

学習活動③ 180分 自分の表したい感じに合わせて、形や色を工夫してつくる。

学習活動④ 45分 表した作品に題名をつけ、みんなで見てよさを感じる。

用具・材料 ○教師：段ボール、段ボールカッター、水用のバット  
○児童：段ボール、はさみ

## つくる喜び

～導入の工夫～

- ・ 段ボールを使った作品製作への意欲につなげるために、単元の初めに著名な段ボール作家がつくった作品を見せた。
- ・ 材料の特性を知り、つくりたいもののイメージを膨らませるために、いろいろな大きさや種類の段ボールをたくさん用意し、水につけたり、ちぎったり、いろいろな方法を試しながら、段ボールという材料にじっくりと触れ合う時間をとった。
- ・ はさみや段ボールカッターの他に、水を入れるバットも用意し、子供たちが試したいと思ったことを自由に試せる環境を設定した。



段ボール作家の作品を見ながら、つくりたいもののアイデアを友だち同士で出し合っていた。試していく中で、段ボールの特性を知り、どんな作品に使えるか考えながら活動していた。

## 広がる想い

～みてみてタイム～

- タイミング・方法・時間…製作途中・班ごと・2分間
- 視点…「だんボールの使い方の工夫を見つけよう！」
- 児童の様子…鑑賞している班以外の児童は製作中のため、つくる作業を見たり、製作者につくり方のコツを聞いたり、意欲的に鑑賞していた。



友だちの作品の工夫が見られて、おもしろい！



そんなアイデアがあるんだ。いろいろなだんボールの使い方があるね！



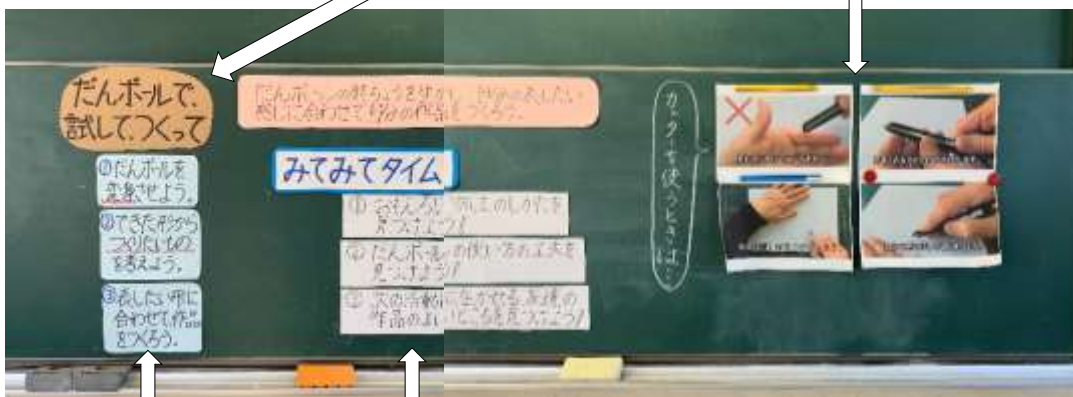
友だちの作品を参考にすると、自分の作品がよくなっていくね。

## 豊かな表現

～学習の流れの可視化～

黒板に貼る題字も、意欲の喚起につながるように段ボールでつくった。

既習の道具の使い方についての注意点を絵と言葉で示し、確認した。



単元の学習の流れを示し、全体を見通して学習活動に取り組めるようにした。

みてみてタイムの視点を示し、効果的な鑑賞の時間となるようにした。

これまで学んだ技法や表現方法を生かすために、モデリングを示し、参考にできるようにした。





題材名【 白の世界 】 三ヶ島小学校第6学年 授業時数8時間

題材の目標 「形の組み合わせ方を考えたり、試したりして、表したい白の世界を思いつく」ことを通して、試したり、見つけたり、考えたりして、思いつく力を培う。

授業の流れ

学習活動① 45分 ジョージ・シーガルの作品を鑑賞し、白の世界の印象を考える

学習活動② 60分 材料を組み合わせたり、主人公をつくったりして、白の世界を構成する。

学習活動③ 210分 材料を接着したり、白く塗ったりしながら発想を広げる。

学習活動④ 45分 表した作品の物語を考えて題名をつけ、自分と友達の作品のよさや違いを味わう。

用具・材料 ○教師：カッター、段ボールカッター、はけ、バット、液体粘土  
○児童：材料、接着剤、はさみ

## つくる喜び

～導入の工夫～

- ・学習活動①の導入で石膏を使ったジョージ・シーガルの作品の鑑賞を行った。白だけでつくった作品の特徴やよさに気付かせたり、材料集めやつくりたい世界の参考にさせたりすることができた。
- ・学習活動③の導入で材料の組み立て方や液体粘土の使い方について実物を用いながら確認した。前年度までの既習事項を思い出させることができた。掲示したことでそれぞれのタイミングで再確認させることができた。

提示した接着方法を活用して材料を組み立てていた。掲示物は、困っている児童に説明するのに役立った。





## 広がる想い

～みてみてタイム～

- タイミング・方法・時間…製作途中・2班ごと・3分間
- 視点…「白くするとおもしろい材料」「材料の組み合わせ方の工夫」
- 児童の様子…鑑賞している児童以外は製作中のため、つくる作業を見たり、製作者に表現の意図を聞いたり、意欲的に鑑賞していた。次回までに用意する材料の参考にする児童や、次時の活動で友達のアイディアを自分の作品に取り入れる児童がいた。考えが浮かばずに手が止まる児童にとっては発想を広げるきっかけになった。



面白いね。何をイメージしてつくったの？



いろんな使い方があるな。次回はあの材料を持って来よう。



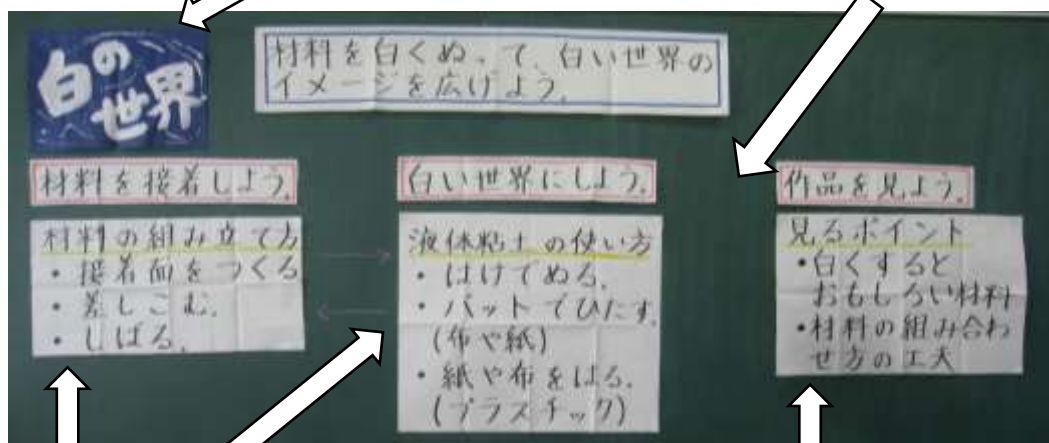
友達がやっていたことをやってみよう！

## 豊かな表現

～学習の流れの可視化～

学習意欲を引き立てるため、液体粘土で題字をかいた。

本時の学習の流れを示し、全体を見通して学習活動に取り組めるようにした。



材料の組み立て方や液体粘土の使い方について、実物を見せながら確認した。

みてみてタイムの視点を示し、効果的な鑑賞の時間となるようにした。

題材名【 白の世界 】 牛沼小学校第6学年 授業時数8時間

題材の目標 「形の組み合わせ方を考えたり、試したりして、表したい白の世界を思いつく」  
ことを通して、試したり、見つけたり、考えたりして、思いつく力を培う。

### 授業の流れ

学習活動① 45分 ジョージ・シーガルの作品を鑑賞し、白の世界の特徴や世界観を考える。

学習活動② 60分 材料を組み合わせたり、主人公をつくったりし、液体粘土の特徴を知る。

学習活動③ 210分 材料を接着したり、白く塗ったりしながら発想を広げる。

学習活動④ 45分 表した作品の物語を考えて題名をつけ、自分と友達の作品のよさや違いを味わう。

用具・材料 ○教師：バット、液体粘土、はけ（細、太）、グルーガン、カッター、濡れ雑巾、バケツ  
○児童：作品、汚れてもいい服、材料、牛乳パック

## つくる喜び

### ～導入の工夫～

- ・ジョージ・シーガルの作品を取り上げ、白一色にするよさを話し合った。「形や動きが大切だ。」「同じ色や質感になることによって想像が広がる」といった意見が出た。
- ・材料の特徴に目をつけさせ、組み立て方にどういったものがあるか考える時間をとった。また、液体粘土で塗ることに見通しがもてるよう、液体粘土の特徴を取り上げた。その結果、目立つところにセロハンテープを貼るのを避けたり、液体粘土で塗ってから接着するものと先に接着するもので分けたりするなどの工夫が見られた。



塗りたての液体粘土は接着の働きがあることを利用して、紙コップを固定しようとしていた。  
「落ちないように上から抑えよう。」

## 広がる想い

～みてみてタイム～

○タイミング・方法・時間…製作途中・クラスの半数ずつ・2分間

○視点…「①どういう世界を表しているか」、「②おすすめの白くする方法と材料」

○児童の様子…導入の白くする方法で、「手」や「浸す、かける」といった意見が出たが、実践した児童は少数だった。しかし、みてみてタイム後、液体粘土を手で触って感触を楽しんだり、はけで塗り切れない部分を指先で塗ったりする児童が増えた。友だち同士でアドバイスをしたり、手伝ってもらったりする姿も見られた。



友だちのまねをして、思い切って手でやってみよう！



友だちにやり方を教えてもらった！  
ちょっと支えていてね。



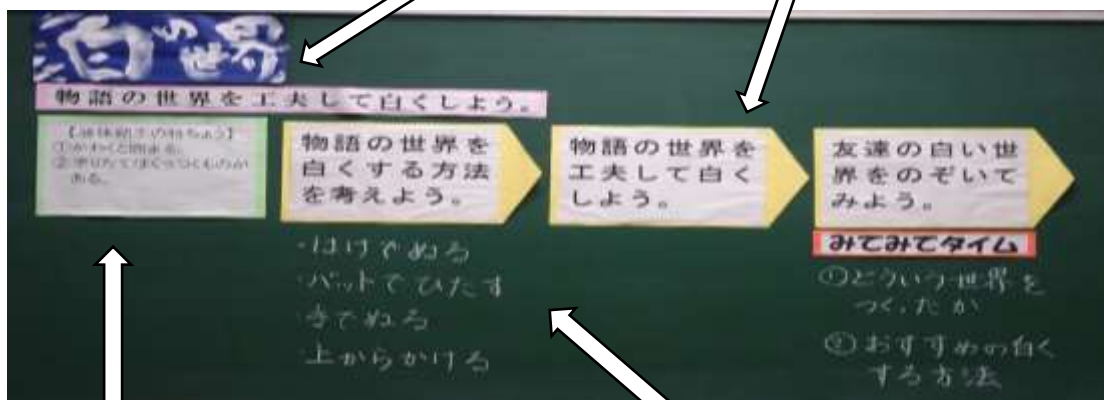
ここはもっと液体粘土をたくさんつけた方がいいよ。

## 豊かな表現

～学習の流れの可視化～

液体粘土で題材名を書いた。

見通しがもてるよう、本時の流れを提示した。

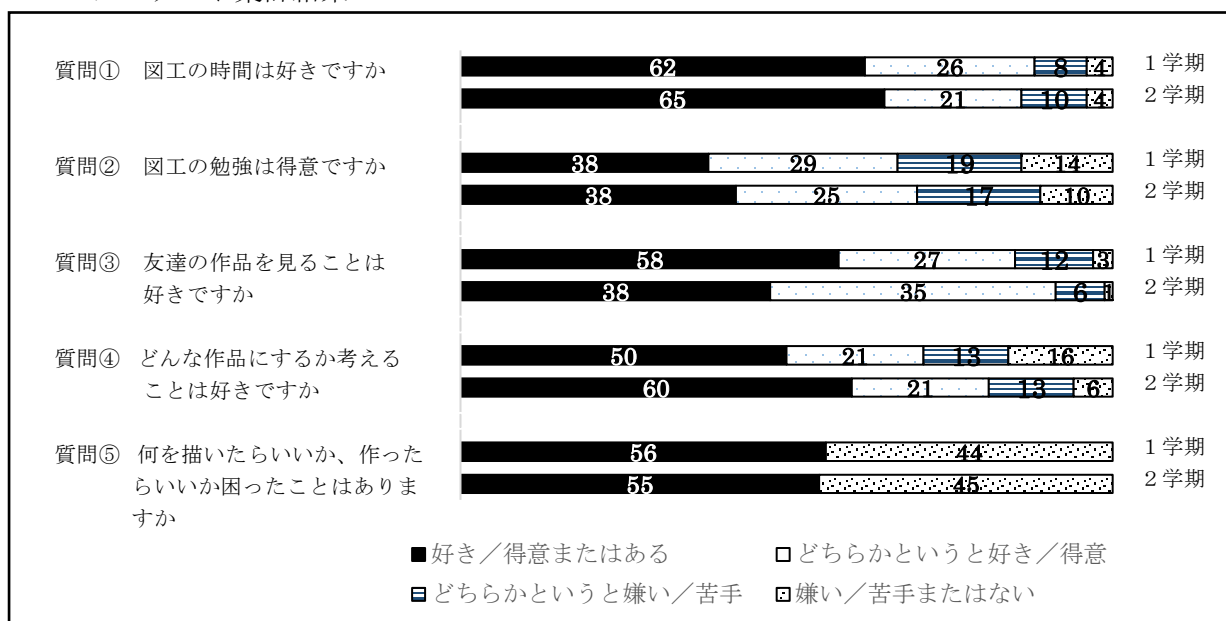


液体粘土の特徴を示し、特徴に基づいて構成できるようにした。

様々な表現方法ができるよう、液体粘土の塗り方を提示した。

## V まとめと課題

### 1 アンケート集計結果



### 2 考察

質問③、質問④の項目では、「好き・どちらかといえば好き」と答えた児童の割合が研究実践前と比べて上昇した。その要因として、①活動内容を可視化したことで見通しをもって活動したこと ②活動のヒントになる技法などが提示されていたこと ③「みてみてタイム」を設定し、友達の作品のアイデアを自分の作品に生かして製作することができたことが挙げられる。これらの指導の工夫は、児童が作品を製作しやすくする効果を発揮したと考えることができる。

しかし、これらの指導の工夫は、図工の時間を「好き」になったり、「得意」だと感じさせる効果は見出せなかった。子供たちが「好き」や「得意」と感じるためには、製作しやすい状況だけでなく、技能の向上による製作への自信が必要なのではないかと考えられる。研究当初は、友達に認めてもらえれば、「好き」や「得意」が増えると考えていたが、子供にとっては思い通りに製作できることも重要な要素なのだろう。

### 3 成果

- ・手が止まった子も友だちのアイデアを見て、自分の作品に取り入れ、製作に取り組めた。
- ・「みてみてタイム」に慣れてくると、子供たちから鑑賞の時間を要求する場面も出てくるなど、その時間を自分の製作に生かそうとする姿が見られた。
- ・「みてみてタイム」で作品を見るだけでなく、持ってきた材料を見る機会を設けたことで、これから製作するもののイメージを広げることができた。

### 4 課題

- ・授業の流れに合わせた適切な「みてみてタイム」のタイミングや方法、製作につながるためにもたせる視点を考えることが難しかった。
- ・導入で用意するモデリングや名画などの作品について、どんなものをどのように見せるのかは、教材と子供の実態に合わせて考えなければならない。

### 参考文献

- ・文部科学省（2017） 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」
- ・埼玉県教育委員会（2018） 「埼玉県小学校教育課程編成要領」
- ・岡田京子（2018） 「会話形式で学ぶ、図画工作科の授業づくり」 明治図書